

哲學研究

第壹卷 第四冊

第四號

大正五年七月一日發行

支那上代の巫、巫咸に就いて……文學博士 狩野直喜

ホルツァーノの哲學……文學士 中川得立

繪畫に於ける自然性の價值(完結)……文學士 植田壽藏

社會的教育學の過去及將來(完結)……文學博士 小西重直

感情移入說非難概括……文學博士 深田康算

彙報

新著紹介

京都帝國大學文學科大學內
京都哲學學會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文科大學内ニ設ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文科大學哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓貳拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學士	中川得立
文學士	植田壽藏
文學博士	松本文三郎
文學士	深田武
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
寶嚴	方治

書記

したものであつて日本民族の立場より見た點が少くはないのであるから嚴密に言はゞ一般理論的研究に特殊民族に關する研究を加味せるものと思ふのである。

第貳號正誤

頁	行	誤	正
八十九	三	兒	見
九十一	四	行ふに	行ふ所に
"	"	意が	意義が
九十六	一五	結婚	既婚
九十七	七	教育等閑	教育を等閑
一〇一	一五	ルツン	ルツン
一〇二	一〇	旋	施
一〇三	一四	人類	人類
"	一五	リエンムルド	リエンバルド
"	"	眞	亦
一〇四	三	場合	場所
"	七	眞	又
"	"	任じ	任かし
一〇六	一三	考へは	考では
一〇七	一二	獨逸の	獨逸が
一〇七	六	眞面目す	眞面目な
一〇七	一一	全體に	全體で
			認めて
			立場に關して
			點が
			五道念
			國家と教育との
			國家は學校
			贊成
			共同的
			爲めの
			この
			二の
			初めて
			此共
			教育
			する所は
			而して
			所の
			状態の

社會的教育學の過去及將來

る差異はないのであるが然し元は提婆那伽梨字で書いてあつた處が殆ど全く羅馬字に書き直された事や、字書が別冊にされた事などは初學者に尠からぬ便宜を與ふる事と思ふ、殊に文抄中般若經典、普曜經、法華經、中論、俱舍論、其他原本に倍すべき量を各種佛典中より摘録された事、そして新に悉曇十八章と提婆那伽梨字が對照され、その書法まで詳述されてある事は本書が氏の前者と異なる主な點でこれは佛教梵本初學のものに對して頗る必要にして効果ある試みであると信ずる、尙かの梵字沿革略表の如きその結果を表示するに至るまでの氏の努力を多とせざるを得ない、然し若し今度かの「梵語入門」に於ける難解の用語が一層解り易く改められ、文法記述の方法が多少なりとも組織的にされたならば、そして又かの造韻法の説明が今少しく詳しくなり、提婆那伽梨字の文抄が尙幾らか加へられたのであつたならばと思はれる、然しこれは私共の至らざる望みであるかも知れない、兎に角本書は梵語初學者の一參考書として適當なものだと信ずる。

目次一、聲法、二、轉聲法、三、書法、四、造韻法、五、文抄、六、字書(別冊)。丙午出版社發行、菊版二五六頁(字書共)。
定價壹圓七拾錢。(本田義英)

教育と社會

アールヴィンゲ・キング著
中島半次郎序
田村重重譯

譯者田村重重氏は早稻田出身の秀才であつて飛きにはシラーの「プラグマティズム」を譯し今又キングの Social Aspect of Education を譯出せられたのである。氏が學界に對する努力の旺盛なるは敬服に堪へざる所である。原著者キングは米國アイオウア州立

寄贈書籍雜誌

大學の教育學の助教であつて已に兒童心理や教育學に關する數種の著書もありて學界で相當に知られて居る學者である。原著は千九百十二年の出版であつて第一篇、教育の外部の社會的關係、第二編、教育の内部の社會的方面に分れ、第一章緒論、教育の社會的見地以下二十章に亘り主に米國に於て研究せられたる教育の社會的方面に關する理論及實際の實例等を組織的に紹介し、之れに著者の教育意見を加へ全篇を出来る支系統的に組織したものであつて米國に於ける此方面の研究を知るの資料として有益なるのみならず各主要題目に對する參考書も懇切に示してあつて研究上少らざる便宜を與へて居るのである。譯者は原著の精神及意義を十分明瞭に簡潔に紹介せんが爲め此を上中下の三篇十八章に分つて譯出し其上索引迄も附して居らるゝのである。資料的であつて而かも系統的理論を一貫させやうとした原著の内容を消化して簡潔に譯出することは決して容易の業ではないのであるが譯者の苦心の結果は遂にこれに成功したものと見てよいのである。殊に文章も練れて居つて濫濫難解の點なく普通の譯書に於て得易からざるよき氣分を感じしむるのであつて吾人は學界の爲め譯者の勞を多とするものである。且又中島半次郎氏の序文も研究上懇切なるものであつて本書を讀むに當り先づ此を一讀すべきものと思ふのである。大日本文明協會發行。(小西重直)

寄贈書籍雜誌

獨逸思想と其背景 文學博士 朝永三十郎 東京寶文館
國際經濟論 服部文四郎著 全

一一九

哲學研究 第四號

實習梵語學

哲學汎論

優生學

現代批判

生命と宇宙

哲學雜誌、心理研究、丁酉倫理會議演集、東洋哲學、六合雜誌、

荻原雲來著 丙午出版社

文學士 木下四郎一著 洛陽堂

文學士 齋藤茂三郎著 不老閣

文學士 紀平正美外三氏著 全

佐々木四方志 著

東亞之光、禪學雜誌、學校教育、教育、普通教育、小學研究、教

育研究、教育學術界、教育界、東京教育、京都教育時報、奈良縣

教育、靜岡縣教育時報、越佐教育雜誌、滋賀縣教育會雜誌、岐阜

縣教育、三重教育、愛知教育雜誌、香川縣教育會雜誌、愛媛教育、

者 都市教育、岡山縣教育會雜誌

前 號 目 次

繪畫に於ける自然性の價值……………文學士 植田 壽藏

正義觀念の變遷……………文學博士 藤井健治郎

精神物理的法則(完結)……………文學士 千葉胤成

社會の本質に關する考察……………文學士 高田保馬

心能の相關研究上の一問題……………文學士 植崎淺太郎

宗教的情操の内容及び基礎……………文學士 宇野圓空

彙報——新著紹介——

會 告

- 一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
- 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
文科大學內 京都哲學會
振替口座大阪參〇六六參番

定 價

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	冊	金	貳拾錢	不	受
六冊	冊	金	壹圓貳拾錢	不	受
十二冊	冊	金	貳圓四拾錢	不	受

廣 告 料

一頁 金拾圓 半頁 金六圓

註 文 規 定

- ◎會員にあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
- ◎本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
- ◎振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
- ◎前金切れの場合は帯封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- ◎見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候
- ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正五年六月二十八日印刷納本
大正五年七月一日發行
第四號 第四卷

編輯者 京都帝國大學文科大學內

右代表者 京都哲學會

發行者 寶嚴方治

印刷者 大葉久吉

印刷所 青柳十一郎

秀英舎第一工場



發 行 所

東京日本橋區本石町三丁目
(振替口座東京二八〇番)

寶文館

發 賣 元

東京市日本橋區本石町三丁目
大阪市東區淡路町四丁目

寶文館

賣 捌 所

- (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、良明堂、上田屋
- (京都) 寶文館
- (大阪) 盛文館
- (神戸) 寶文館